

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ふくおかけんりつみやこうとうがっこう				②所在都道府県	福岡県
27～31	① 校名	福岡県立京都高等学校					
③対象学 科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	第1学年・第2学年が7学級、第3学年が8学級の計22学級。	
普通科	280	80	80		440		
⑥研究開発構想名	国内外の農業問題に挑むグローバルリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	<p>○1年次の全ての生徒を対象に地域や日本の農業問題を題材として、グローバル人材としての素地を育成するためのプログラムを研究開発する。2年次以降、高い志と能力を有する生徒を対象に「S Gコース（スーパーグローバルコース）」を編成し、国際的な視野に立って農業問題に挑むグローバルリーダーの育成について研究開発する。</p> <p>○本研究開発では、地域・大学・企業・官公庁と緊密に連携しながら効果的に推進していくが、特に京都大学とは、ICTを活用した遠隔教育システムにより課題研究を実施する。</p>						
⑧研究開発の内容等	<p><b>(1)目的・目標</b></p> <p>「京築地域から日本へ」、「日本から世界へ」、そして「世界のグローバルリーダーへ」というつながりと広がり意識し、本校が位置する京築地域や日本そして環太平洋地域の国々が抱える農業問題、課題等を世界的視野に立って研究し、その課題解決に必要な主体的かつ協働的に行動できる力、批判的思考力や論理的思考力等を有するグローバルリーダーの育成方法について研究開発する。併せて、その研究成果を京築地域に還元する方策を明らかにする。</p> <p><b>(2)現状の分析と研究開発の仮説</b></p> <p>京築地域は、輸出入の玄関口である苅田港を有しており、日産自動車九州(株)、TOTO(株)(株)安川電機などのグローバルな企業が立地する一方で、無花果、苺等の果物の生産をはじめ伝統的に農業が大変盛んな地域でもある。</p> <p>日本は、食糧自給率が低く輸入に依存している現状があり、TPP参加を表明したことによりその是非が取り沙汰されている。京築地域は小規模農家が多く、農業従事人口の高齢化も進行中で、後継者の問題も抱えている。このような中、農作物の自由貿易の進展やTPPが締結された場合には、海外の安価な輸入作物との競争を強いられることになり、地域農作物の品質の良さと安心、安全であることを強みとして海外に活路を見出すことが必要不可欠となる。</p> <p>以上のことから、地元行政機関やJA、京都大学、食料農業貿易を研究する丸紅(株)、イオン(株)、(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所等と連携しながら、農業問題を通して世界に目を向け、地域を活性化していくグローバルリーダーの育成について研究することは、将来、京築地域を支えていく本校生徒にとって最も適した研究内容であり、その成果として以下の3点が挙げられる。</p> <p>①地域や日本、世界の農業問題の解決に取り組むことにより、社会科学的なアプローチの方法や多角的な視野で物事を考える力が身につく。</p> <p>②海外で活躍する人材だけでなく、地域で活躍するグローバルリーダーを育成できる。</p> <p>③研究成果を地域に還元することにより、地域産業界の活性化に貢献できる。</p> <p><b>(3)成果の普及</b></p> <p>○研究発表会の実施：京都大学や海外の大学・高校、留学生や地域住民に対し、研究成果を発表</p> <p>○研究開発成果をまとめた冊子の作成、配布</p> <p>○学校ホームページによる研究成果の報告</p> <p>○県内国際交流推進校との連携、SGH教育プログラムの共有</p> <p>○県内の高校教員を対象とした研修会の実施</p> <p>○地域への取組成果の還元：地域振興ディスカッション、海外向け商品開発の支援等</p>						
	⑧-1全体	<p><b>(1)課題研究内容</b></p> <p>本校が位置する京築地域や日本、環太平洋地域の国々が抱える農業問題や農業振興策等を世界的視野に立って研究し、その課題解決に向けて学年進行で取り組む。</p>					

⑧ 研究開発の内容等	⑧-2 課題研究	<p>○1年次：地域農業・産業振興研究</p> <p>○2年次：日本および環太平洋地域の農業事情・振興策研究</p> <p>○3年次：京築地域の農業振興策研究</p> <p><b>(2)実施方法・検証評価</b></p> <p>①地域・大学・企業・官公庁の協力（特に京都大学教育学部・農学部からは、教授や大学院生等による遠隔指導）を受けながら「総合的な学習の時間（グローバルアグリタイム）」を活用して課題研究に取り組む。</p> <p>○1年次（1単位）：地域農業・産業振興研究        京築地域、日本の農業事情について調査研究を行い、地域農業の強みと課題の発見に取り組み、発表すると同時に学校ホームページにも掲載し、検証評価する。        なお、京都大学を訪問し、研究成果の発表を行い、意見交換を行うとともに、教授からの指導・助言を受けることを目的とした「課題研究ゼミ」を実施する。</p> <p>○2年次（1単位）：日本および環太平洋地域の農業事情・振興策研究        農作物の自由貿易を踏まえ、日本および環太平洋地域の農業関連施策を貿易、流通面等から研究する。課題研究の内容の深化、日本語、英語両方のプレゼンテーションを研究成果の検証評価とする。        なお、海外研修としてニュージーランド、ハワイを訪問し、現地でのフィールドワークと地元高校生・大学生との意見交換等を実施し、得られた知識を課題研究に反映させる。</p> <p>○3年次（1単位）：京築地域の農業振興策研究        1、2年時の課題研究やフィールドワーク、海外研修等で得られた地域や環太平洋地域の国々の農業活性化の取組から、京築地域の農業振興策について研究・発表し、学校ホームページに掲載する。課題研究の内容の深化、日本語、英語両方のプレゼンテーションを検証評価とする。併せて、京築地域が農業の活性化に向けて取り組む商品開発をソフト面から支援する。</p> <p>②学校設定科目の開設        平成28年度に、2年生SGコース80名を対象に「SG英語運用」を開設する。「プレゼンテーションを英語でわかりやすく行うことができたか」の項目により検証評価する。</p> <p>③コミュニケーション力、英語による課題研究プレゼンテーションの向上を目指した取り組み        留学生を招き、農業をテーマとした英語合宿「京都インテンシブトレーニングキャンプ」の実施。</p> <p><b>(3)必要となる教育課程の特例等</b>        特になし。</p>
⑧-3 上記以外		<p><b>(1)課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b>        平成27年度に1年生全員を対象とする学校設定科目「SG現代社会探究」、「SG地域文化探究」を開設する。研究成果は、「農業問題への理解を深めることができたか」、「郷土への理解を深めることができたか」等の項目により検証評価する。</p> <p><b>(2)課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>        特になし。</p> <p><b>(3)グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課内外の取組内容・実施方法</b>        京都大学とのICTを活用した遠隔教育システムや世界を舞台に活躍する企業、行政機関等との連携により、次の各取組を効果的に推進する。</p> <p>①学校設定科目の開設        「SG現代社会探究」、「SG地域文化探究」の開設。</p> <p>②論理的・批判的思考力、発信力の育成        校内英語ディベートコンテスト実施（全国大会への出場）。</p> <p>③トップリーダー研修        TOTO(株)、日産自動車九州(株)等、世界的に活躍する各界のリーダーを訪問し、世界を相手に働く意義等を学習。</p> <p>④草の根グローバル活動        近隣の小中学校、高齢者を対象に発表会等を行い、グローバル教育センター的役割を担う。</p> <p>⑤福岡県教育委員会と連携した取組        福岡県教育委員会の企画・取組にSGH校として関わり、県全体のグローバル人材育成に向けた環境整備に貢献。</p>
⑨その他特記事項		<p>特になし。</p>

ふりがな	ふくおかけんりつみやこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	福岡県立京都高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	352 人
	SGH対象生徒以外:	50 人	100 人	人	人	人	人	人	100 人
目標設定の考え方: SGHの活動を通じて、生徒の8割以上が地域の振興に貢献し、自己研鑽に努めるという観点で目標値を決定した。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	440 人
	SGH対象生徒以外:	1 人	1 人	人	人	人	人	人	1 人
目標設定の考え方: SGH対象生徒の約1割が自主的に留学または海外研修に参加することを目標に設定した。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	25%	25%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: SGH対象生徒全員、対象外生徒の4割程度									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	45 人
	SGH対象生徒以外:	— 人	25 人	人	人	人	人	人	20 人
目標設定の考え方: 現在の受賞数をもとに、SGH対象生徒の1割程度、対象外生徒の5%程度。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	— %	5%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: CEFRのB1～B2レベルをセンター試験170点以上、英検2級、TOEFL IBT57点以上とした。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	20%	20%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: SGUや留学をはじめとする国際化に積極的に取り組む大学への進学率を高めたい。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	1人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: 海外の大学への進学を目指す生徒が学年に1人であることを目標としたい。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: SGHで学んだことが進路決定に際して主要な要素となるよう取り組みを充実させたい。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: SGH対象の生徒の1割									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方: 海外研修旅行への参加を中心に、自主的に研修に参加する生徒を加えて目標を設定した。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	360人
	目標設定の考え方: 1年生全員の参加、2、3年の半数程度の参加となるようプログラムを充実させたい。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	0校	校	校	校	校	校	5校
	目標設定の考え方: 年次を追って1校ずつ増やし、5年間で5校程度の提携先を確保していく。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方: 連携先の大学から年間100名程度の外部講師の招聘を目標とする。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	150人
	目標設定の考え方: 連携先の企業、公的機関などとの連携を模索し、150名程度の招聘を目標とする。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方: ディベート大会や課題研究の研究発表大会などへの積極的な参加を目指す。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	人	1人	人	人	人	人	人	3人
	目標設定の考え方: 海外の連携先となる高校から年1名程度の受け入れを目標としたい。							
h	先進校としての研究発表回数							
	回	0回	回	回	回	回	回	2回
	目標設定の考え方: 毎年、中間発表と研究発表大会の2度の機会を設定することを目標とする。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	目標設定の考え方: 初年度中に整備し、積極的に情報発信を行っていきたい。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	880	920	880	840	840	840	840
SGH対象生徒数			280	360	440	440	440
SGH対象外生徒数				480	400	400	400